

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2024年12月24日
第53号

余市アイヌに思いを馳せる

野田サトル氏の漫画『ゴールデンカムイ』のヒロイン、アシリパは小樽近郊のコタン「村」に住んでいることになっている。

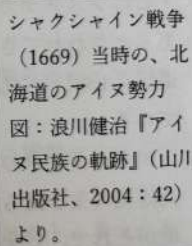
後志地方でも近代においては余市の歌人遠星北斗や、小樽出身で近文アイヌ給与地返還運動に尽力した天川恵三郎のような



シヤクシヤイン戦争（一六〇）

九年、當時のアイヌ勢力図は左図の通り。余市は宗谷、利尻などのアイヌとともに、樺太アイヌと松前の間をつなぐ交易によって利益を得ていたと考えられる。それは樺太アイヌと大陸の山丹人との交易ルートにもつながっている。石狩アイヌはシャクシャイン戦争に参加しなかったが、余市はこの戦争に加わり、商船を襲った。松前の不平等な取引に苦しんだためだ。

ユカラから余市アイヌを知る
アイヌ英雄叙事詩には余市ア



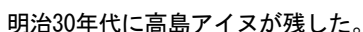
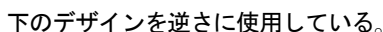
「クトウネシリカ（虎杖丸の曲）」

（あらずじ）ポイヤウンペは両親がおらず、シヌタブカで育ての兄妹に養育されている。イシカラ（石狩）湾に黄金のラツコが出現し、石狩人がそれを捕まえた者に自分の妹（石狩姫）と財宝をやると言っているという話が聞こえてくる。ポイヤウンペは黄金のラツコを獲ってシヌタブカに持ち帰る。しかし、石狩人はラツコを取り返すために攻めてくる…。

解説 ラッコは千島列島に生息している。石狩湾にいるはずはないが、交易の重要な品として松前まで運ばれている。

高島アイヌのテタラペ（草皮衣）（下）に着想を得た。

(小樽総合博物館蔵)



この話は石狩のヤウンクル（陸の人Ⅱ北海道アイヌ）ーレブンクル（沖の人Ⅱ大陸の異民族）連合 対 ポイヤウンペと余市のヤウンクルーレブンクル連合の戦いと考えられる。

石狩灣は樺太―大陸との交易拠点として非常に有利な場所であり、物語の時点でその覇権を握っていたのが石狩人だとすると、その地域との繋がりを強めることの意義が理解できる。

現実世界の反映と見るなら
余市が交易の覇権握る

実際にシヤクシヤイン戦争
時点では余市が日本海交易の覇
権を握っているものであり、「ク
トゥネシリカ（虎杖丸の曲）」
に描かれているのはそれ以前の
状況だと見ることが出来る。

余市が浜益と手を組むことによつて、石狩湾からの出口は押さえられ、石狩アイヌは大陸との交易を断ち切られたが、浜益はその後、石狩アイヌの傘下に置かれ、余市のみが残つたという筋書きが考えられる。